

令和2年度決算に基づく「財政指標」を公表します

■健全化判断比率

項目	白石市	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	赤字なし	13.38%	20.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	18.38%	30.0%
実質公債費比率	4.5%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—	350.0%	

健全財政に努めるワン!



健全化判断比率指標はすべて「基準内」
 地方自治体は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」（平成19年6月公布）の規定により、財政指標の公表が義務づけられています。
 この法律では、地方公共団体の財政健全度を表す指標において「早期健全化基準」または「財政再生基準」を超過すると、財政健全化計画を策定することが義務づけられています。
 本市のすべての指標は、健全化判断比率の基準内であるものの、厳しい財政状況が続いているため、引き続き健全な財政運営に努めていく必要があります。

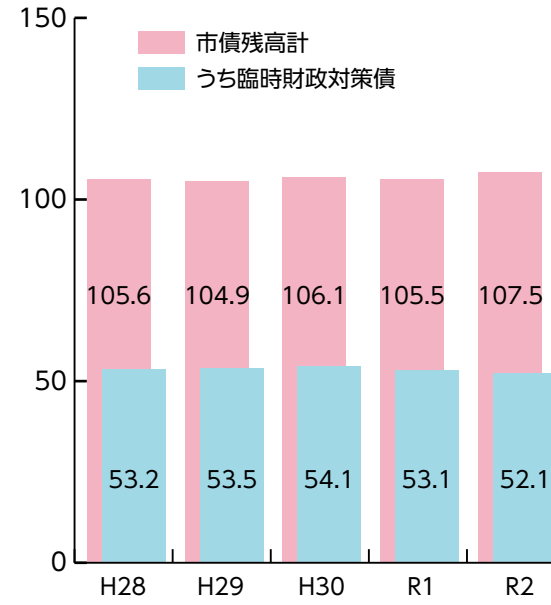
■資金不足比率(公営企業)

公営企業名	資金不足比率	経営健全化基準
水道	資金不足なし	20.0%
下水道	資金不足なし	20.0%

決算用語メモ

形式収支	歳入決算額から歳出決算額を差し引いた額
実質収支	形式収支から翌年度に繰り越すべき財源を除いた額
実質赤字比率	一般会計等の赤字の程度を表す指標で、財政運営の悪化の度合いを示すもの
連結実質赤字比率	すべての会計の赤字と黒字を合算して、全体としての赤字の程度を表す指標で、財政運営の悪化の度合いを示すもの
実質公債費比率	市債(借金)の返済額およびこれに準じる額の大きさを表す指標で、資金繰りの程度を示すもの
将来負担比率	市債(借金)や将来支払っていく可能性のある負担金等の現時点での残高を表す指標で、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すもの
資金不足比率	公営企業会計ごとの資金不足額の事業収入に対する割合

市債(借金)残高の推移



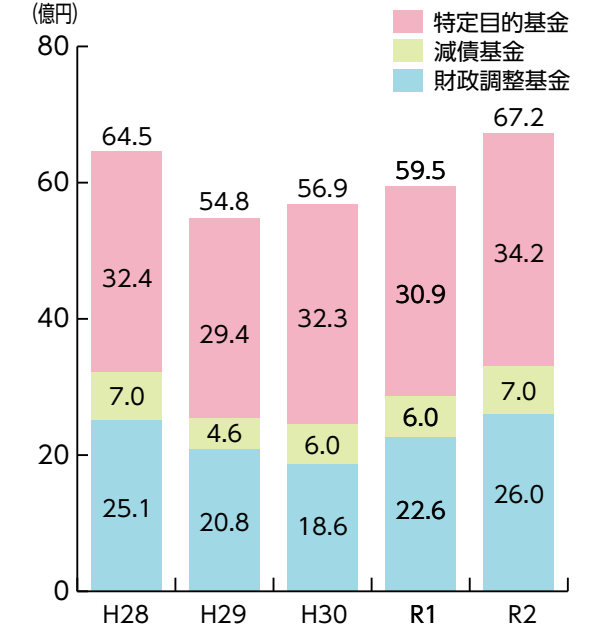
市債(借金)の残高は、約2億円の増加
 令和2年度末の一般会計市債(借金)の残高は、107億5,221万円となり、前年度末と比較すると2億3,500万円(1.9%)増加しました。
 令和2年度は、中河原白石沖線街路事業のほか、ホワイトキューブZEB化推進改修事業や公園施設長寿命化対策事業などの普通建設事業の財源として市債を借り入れたものや臨時財政対策債の借入により、借入れ総額は12億8,175万円となりました。
 一方、これまで借り入れていた市債の返済(償還元金)が、10億7,825万円であったため、市債残高は増加しました。
 市債借入れの増加は、後の公債費(借金返済)増加につながることから、市債残高の抑制に努めるとともに、地方交付税措置がある地方債を有効に活用していきます。

■市債の状況

区分	令和元年度末残高	令和2年度借入	令和2年度元金返済	令和2年度末残高
一般会計	105億4,871万円	12億8,175万円	10億7,825万円	107億5,221万円
うち、臨時財政対策債	53億 724万円	4億2,168万円	5億1,942万円	52億 950万円

ふるさと納税額は、約5.6億円
 令和2年度末の一般会計の積立基金(貯金)の残高は、67億2,137万円となり、前年度末と比較すると7億7,525万円(13.0%)の増加となりました。
 令和2年度は、ふるさと納税が約5億6,000万円と昨年度とほぼ同額をいただいたこともあり、財政調整基金に3億3,868万円、減債基金に1億1,600万円、都市整備基金に2億3,046万円の積立を行うことができました。
 厳しい財政状況の中で、令和2年度決算では積立基金(貯金)の残高が増加しましたが、災害や新型コロナウイルス対策などの緊急的な事業に対応できるように、また、将来に向け持続可能な財政運営を進め、施策の「選択と集中」を着実に実施し、財政調整基金をはじめとした基金残高の確保に努めます。

一般会計の積立基金残高の推移



■基金の状況

区分	令和元年度末残高	令和2年度積立	令和2年度取崩	令和2年度末残高
財政調整基金	22億6,058万円	3億3,868万円	0円	25億9,926万円
減債基金	6億 21万円	1億 16万円	0円	7億 37万円
その他特定目的基金	30億8,533万円	3億5,570万円	1,929万円	34億2,174万円
合計	59億4,612万円	7億9,454万円	1,929万円	67億2,137万円